

イーストスプリング・アジア・オセアニア 好配当株式オープン (毎月分配型)

追加型投信／海外／株式

第108期(決算日 2015年4月14日)
 第109期(決算日 2015年5月14日)
 第110期(決算日 2015年6月15日)
 第111期(決算日 2015年7月14日)
 第112期(決算日 2015年8月14日)
 第113期(決算日 2015年9月14日)

作成対象期間(2015年3月17日～2015年9月14日)

| 第113期末(2015年9月14日) | |
|--|----------|
| 基準価額 | 7,430円 |
| 純資産総額 | 7,822百万円 |
| 第108期～第113期 (2015年3月17日～2015年9月14日) | |
| 騰落率 | △14.2% |
| 分配金合計 | 120円 |

(注)騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率で表示しています。

受益者のみなさまへ

平素は格別のお引立てにあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「イーストスプリング・アジア・オセアニア好配当株式オープン(毎月分配型)」は、2015年9月14日に決算を行いました。

当ファンドは、主として日本を除くアジア・オセアニア地域の株式に実質的に投資を行い、信託財産の成長を目指して運用を行います。

当作成期につきましてもこれに沿った運用を行ってまいりました。ここに、その運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜われますよう、お願い申し上げます。

当ファンドは、信託約款において運用報告書(全体版)を電磁的方法によりご提供することを定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順でご覧いただけます。なお、書面をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<閲覧方法>

右記[お問い合わせ先]ホームページアドレスにアクセス⇒
 上部「運用状況」のタブを選択⇒「運用状況一覧」ページを
 表示⇒当ファンド記載の中にある「運用報告書(全体版)」を
 選択

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

【お問い合わせ先】

電話番号:03-5224-3400

(受付時間は営業日の午前9時から午後5時まで)

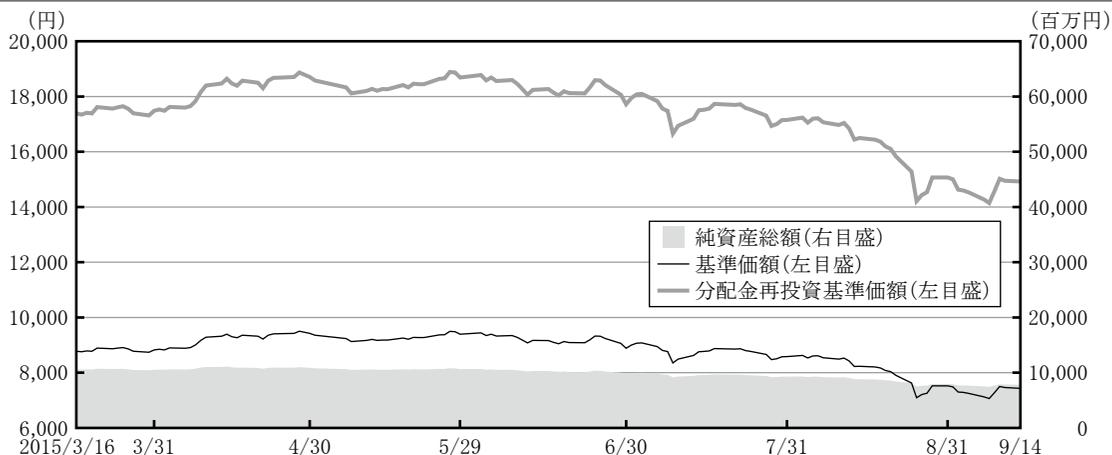
ホームページアドレス: <http://www.eastspring.co.jp/>

〒100-6905

東京都千代田区丸の内2-6-1丸の内パークビルディング

運用経過

当作成期中の基準価額等の推移について(第108期～第113期:2015年3月17日から2015年9月14日まで)



| | |
|--------|-------------------|
| 第108期首 | 8,779円 |
| 第113期末 | 7,430円(既払分配金120円) |
| 騰落率 | △14.2%(分配金再投資ベース) |

(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについては、お客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

基準価額の主な変動要因

当作成期初から2015年5月まで、中国における金融緩和への期待や米国の利上げ先送り観測などを背景に株価は堅調に推移したものの、その後はギリシャ債務問題や中国株の急落を受けて株価は下落に転じ、基準価額も下落傾向となりました。8月には中国景気の減速懸念を背景とした中国本土株の急落が発端となり、リスク回避の動きが連鎖的かつ急速に拡大して世界同時株安となる中、為替市場で円高が進行したことから、基準価額は下げ幅を拡大して当作成期末を迎えました。

1万口当たりの費用明細

| 項目 | 第108期～第113期 2015/3/17 ～2015/9/14 | | 項目の概要 |
|-------------|--|---------|--|
| | 金額 | 比率 | |
| (a) 信託報酬 | 75円 | 0.859% | (a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率 作成期間の平均基準価額は、8,771円です。 |
| (投信会社) | (39) | (0.446) | 委託した資金の運用の対価 |
| (販売会社) | (33) | (0.376) | 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 |
| (受託会社) | (3) | (0.038) | 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価 |
| (b) 売買委託手数料 | 6 | 0.074 | (b) 売買委託手数料＝作成期間の売買委託手数料÷作成期間の平均受益権口数 |
| (株式) | (6) | (0.074) | 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 |
| (新株予約権証券) | (0) | (0.000) | |
| (c) 有価証券取引税 | 3 | 0.038 | (c) 有価証券取引税＝作成期間の有価証券取引税÷作成期間の平均受益権口数 |
| (株式) | (3) | (0.038) | 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金 |
| (新株予約権証券) | (0) | (0.000) | |
| (d) その他費用 | 6 | 0.066 | (d) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数 |
| (保管費用) | (2) | (0.027) | 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 |
| (監査費用) | (1) | (0.007) | 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 |
| (その他1) | (1) | (0.011) | 目論見書及び運用報告書等の法定開示書類の作成費用等 |
| (その他) | (2) | (0.022) | キャピタルゲイン税及び信託管理事務にかかる手数料等 |
| 合計 | 90 | 1.037 | |

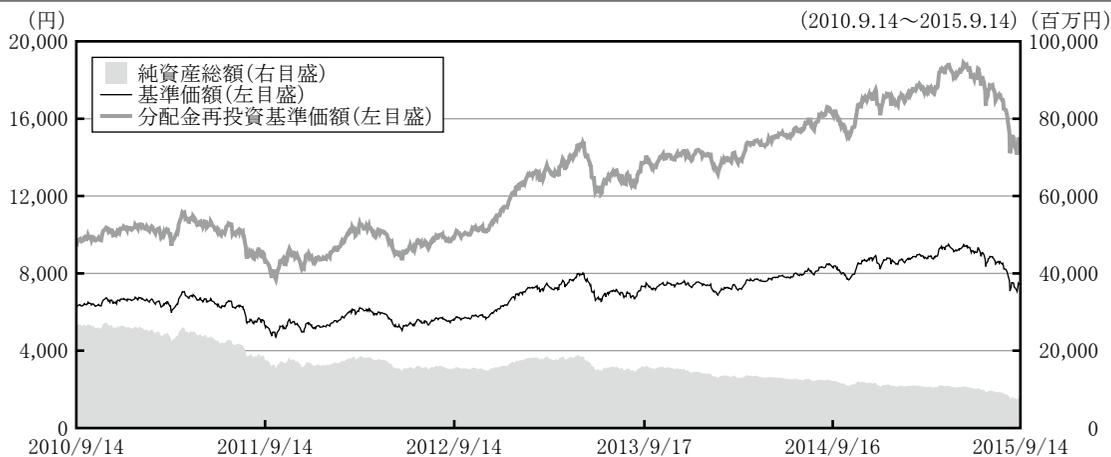
(注1) 作成期間の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注4) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

最近5年間の基準価額等の推移について



(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様が利用するコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

* 当ファンドの運用の基本方針に適合した、公表されている指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

| | 2010/9/14 期首 | 2011/9/14 決算日 | 2012/9/14 決算日 | 2013/9/17 決算日 | 2014/9/16 決算日 | 2015/9/14 決算日 |
|--------------------|-----------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 基準価額 (円) | 6,130 | 5,289 | 5,592 | 7,319 | 8,314 | 7,430 |
| 期間分配金合計(税込み) (円) | — | 420 | 420 | 420 | 300 | 240 |
| 分配金再投資基準価額の騰落率 (%) | — | △7.8 | 14.1 | 39.2 | 18.2 | △8.1 |
| 純資産総額 (百万円) | 25,841 | 17,649 | 15,355 | 15,835 | 12,132 | 7,822 |

投資環境について

○海外株式市況

アジア・オセアニア地域の株式市場は、当作成期初から2015年5月まで、中国における金融緩和への期待や米国の利上げ先送り観測などを背景に堅調に推移しました。しかしその後は、ギリシャ債務問題や中国本土株の急落を受けて市場センチメントが悪化し、株価は下落傾向となりました。さらに8月には、米国の利上げが9月に行われる可能性が燃る中で、中国において実質的な人民元切り下げが実施されたことならびに製造業購買担当者景気指数(PMI)が低下したことを受けて、中国景気の減速懸念が増幅されました。そして、中国の株安に端を発したリスク回避の動きは連鎖的かつ急速に拡大して世界同時株安となり、アジア・オセアニア地域の株価は下げ幅を拡大しました。8月下旬から当作成期末にかけて、中国の追加利下げを受けて市場はやや落ち着きを取り戻したものの、株価の反発は限定的となりました。

○為替市況

アジア・オセアニア地域の通貨は、米国の利上げ観測を背景に米ドル高が進行する中、全般に対米ドルで下落しました。特に、資源安や金融緩和期待の影響を受けた通貨に加えて、世界的なリスク回避の動きの中で経済ファンダメンタルズの脆弱性が懸念された通貨の下落幅が大きくなりました。円相場は、2015年8月上旬までは米国の利上げ観測を背景に当作成期初比で円安米ドル高の水準にあったものの、リスクオフの局面で円高米ドル安が進行した結果、アジア・オセアニア地域の通貨は対円でも下落しました。

ポートフォリオについて

○当ファンド

当ファンドは、イーストスプリング・アジア・オセアニア好配当株式マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として日本を除くアジア・オセアニア地域の株式に投資を行いました。

○イーストスプリング・アジア・オセアニア好配当株式マザーファンド

主として日本を除くアジア・オセアニア地域の株式に投資を行い、安定的な配当収入の確保および中長期的な値上がり益の獲得を目指した運用を行いました。当作成期中の投資行動では、バリュエーションが魅力的な水準にあり値上がり期待できる銘柄の中から、配当利回りが高い銘柄や特別配当金の支払いが期待できる銘柄などに注目し、市場平均を上回る平均配当利回りの水準を維持しました。

組入比率については、国・地域別では、シンガポール、台湾を引上げる一方、オーストラリア、タイを引下げました。セクター別では、資本財・サービス、金融を引上げる一方、エネルギー、生活必需品を引下げました。パフォーマンスについては、国・地域別では、オーストラリア、香港、台湾がマイナスに作用しました。セクター別では、一般消費財・サービスがパフォーマンスに貢献する一方、金融、情報技術がマイナスに作用しました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドの運用の基本方針に適合した、公表されている指標が存在しないため、ベンチマークを設けておりません。

分配金について

分配金額は、基準価額水準・市況動向等を勘案して、以下の通りとさせていただきます。なお、留保益の運用につきましては、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

分配原資の内訳

(1万口当たり、税引前)

| 項目 | 第108期 | 第109期 | 第110期 | 第111期 | 第112期 | 第113期 |
|---------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|
| | 2015年3月17日 ～2015年4月14日 | 2015年4月15日 ～2015年5月14日 | 2015年5月15日 ～2015年6月15日 | 2015年6月16日 ～2015年7月14日 | 2015年7月15日 ～2015年8月14日 | 2015年8月15日 ～2015年9月14日 |
| 当期分配金 (円) | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 |
| (対基準価額比率) (%) | 0.213 | 0.217 | 0.218 | 0.228 | 0.242 | 0.268 |
| 当期の収益 (円) | 20 | 10 | 8 | 20 | 20 | 20 |
| 当期の収益以外 (円) | — | 9 | 11 | — | — | — |
| 翌期繰越分配対象額 (円) | 694 | 685 | 674 | 716 | 729 | 738 |

(注1)「当期の収益」と「当期の収益以外」は円未満は切捨てて表示しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は当期分配金(税引前)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注3) —印は該当がないことを示しています。

今後の運用方針について

○当ファンド

引き続きイーストスプリング・アジア・オセアニア好配当株式マザーファンド受益証券を高位に組入れることにより、信託財産の成長を図ることを目指します。

○イーストスプリング・アジア・オセアニア好配当株式マザーファンド

分散投資によりリスクの分散を図りながら、先進国と比較して相対的に高い経済成長が期待される、日本を除くアジア・オセアニア地域の株式へ投資を行います。今後とも、個別銘柄のキャッシュフローと配当の持続可能性に注目したリサーチを基に、安定的な配当収入の確保および中長期的な値上がり益の獲得を目指して運用を行う予定です。現在のように、先行き不透明感から市場がマクロ経済などのニュースに敏感に反応する局面では、株価の短期的な変動にも耐える投資期間を設定し、ファンダメンタルズとバリュエーションを十分に見極めるという投資の基本に立ち返ることが重要と考えます。企業のファンダメンタルズに関係なく株価が変動する局面においては、財務体質の強い銘柄への投資機会をうかがっていきます。

お知らせ

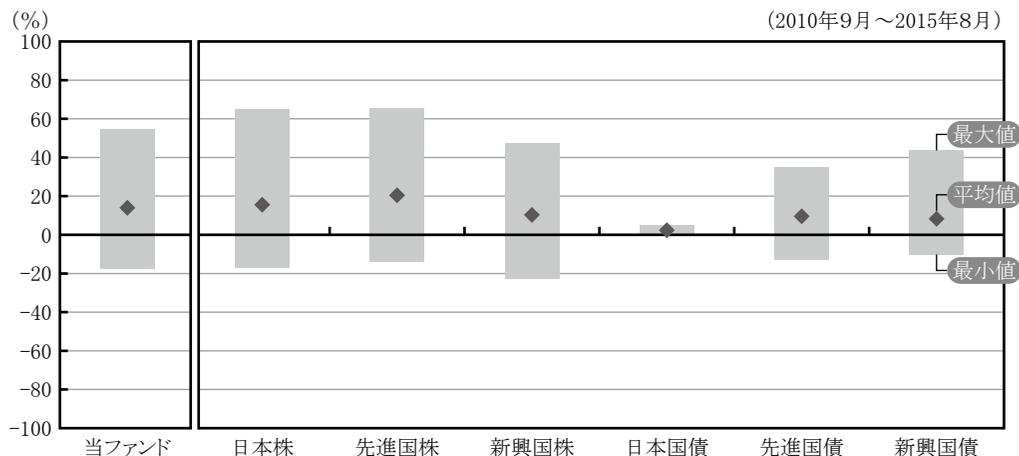
該当事項はありません。

当ファンドの概要

| | | |
|--------|---|---|
| 商品分類 | 追加型投信／海外／株式 | |
| 信託期間 | 2006年3月30日から2026年3月16日まで | |
| 運用方針 | イーストスプリング・アジア・オセアニア好配当株式マザーファンドの受益証券への投資を通じて、主として日本を除くアジア・オセアニア地域の株式に投資を行い、安定的な配当収入の確保および中長期的な値上り益の獲得を目指して運用を行います。 | |
| 主要投資対象 | イーストスプリング・アジア・オセアニア好配当株式オープン(毎月分配型) | イーストスプリング・アジア・オセアニア好配当株式マザーファンドの受益証券を主要投資対象とします。 |
| | イーストスプリング・アジア・オセアニア好配当株式マザーファンド | 日本を除くアジア・オセアニア地域の株式を主要投資対象とします。 |
| 投資制限 | イーストスプリング・アジア・オセアニア好配当株式オープン(毎月分配型) | ①外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。 ②株式への実質投資割合には制限を設けません。 ③同一銘柄の株式への実質投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の10%以下とします。 |
| | イーストスプリング・アジア・オセアニア好配当株式マザーファンド | ①外貨建資産への投資割合には制限を設けません。 ②株式への投資割合には制限を設けません。 ③同一銘柄の株式への投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の10%以下とします。 |
| 分配方針 | 毎決算時(毎月14日。休業日の場合は翌営業日。)に、主に配当等収益から安定的に分配を行うことを目指します。また、3月、6月、9月、12月の決算時には、配当等収益および売買益(評価益を含みます。)等から、委託会社が基準価額水準・市況動向等を勘案して分配を行います。ただし、分配対象額が少額の場合は、収益分配を行わないこともあります。 | |

(参考情報)

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



| (%) | 当ファンド | 日本株 | 先進国株 | 新興国株 | 日本国債 | 先進国債 | 新興国債 |
|-----|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|
| 平均値 | 13.9 | 15.5 | 20.5 | 10.3 | 2.3 | 9.6 | 8.3 |
| 最大値 | 54.6 | 65.0 | 65.6 | 47.3 | 4.5 | 34.9 | 43.7 |
| 最小値 | -17.5 | -17.0 | -13.7 | -22.9 | 0.4 | -12.7 | -10.1 |

※当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように、2010年9月から2015年8月の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンド及び他の代表的な資産クラスについて表示したものです。当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。
すべての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

※ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

<各資産クラスの指数>

日本株: 東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株: MSCIロクサイ・インデックス (配当込み、円換算ベース)

新興国株: MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円換算ベース)

日本国債: NOMURA-BPI国債

先進国債: シティ世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)

新興国債: JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しています。「円換算ベース」は、米ドルベースの指数を当社が円換算したものです。

ファンドデータ

当ファンドの組入資産の内容

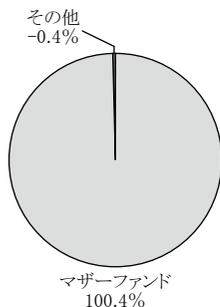
○組入ファンド

(組入銘柄数: 1銘柄)

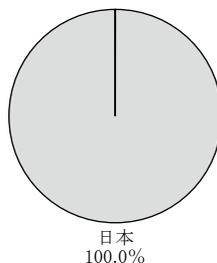
| ファンド名 | 第113期末 2015年9月14日 |
|---------------------------------|----------------------|
| イーストスプリング・アジア・オセアニア好配当株式マザーファンド | 100.4% |

(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

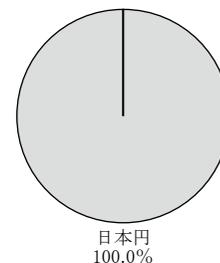
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 資産別配分において、未払金等の発生により「その他」の数値がマイナスになることがあります。

純資産等

| 項目 | 第108期末 2015年4月14日 | 第109期末 2015年5月14日 | 第110期末 2015年6月15日 | 第111期末 2015年7月14日 | 第112期末 2015年8月14日 | 第113期末 2015年9月14日 |
|------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| 純資産総額 | 11,115,174,285円 | 10,535,779,535円 | 10,295,079,547円 | 9,564,734,707円 | 8,812,595,695円 | 7,822,497,789円 |
| 受益権総口数 | 11,835,887,492口 | 11,473,349,555口 | 11,235,069,035口 | 10,920,299,038口 | 10,702,219,179口 | 10,528,731,834口 |
| 1万円当たり基準価額 | 9,391円 | 9,183円 | 9,163円 | 8,759円 | 8,234円 | 7,430円 |

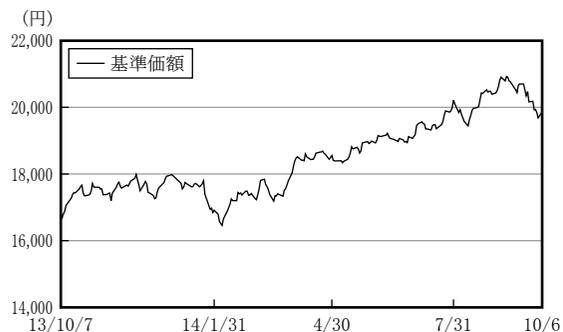
* 当作成期中(第108期～第113期)において追加設定元本額は242,385,214円、一部解約元本額は1,765,678,215円です。

組入上位ファンドの概要

◆イーストスプリング・アジア・オセアニア好配当株式マザーファンド

(計算期間 2013年10月8日～2014年10月6日)

○基準価額の推移



○組入上位10銘柄

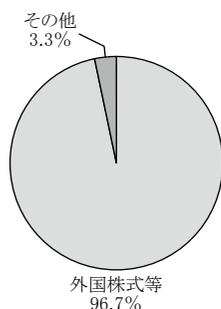
(組入銘柄数:72銘柄)

| 銘柄名 | 業種 | 国・地域 | 比率 |
|-------------------------------------|-------------|---------|------|
| BHP Billiton Limited | 素材 | オーストラリア | 3.6% |
| Aust And Nz Banking Group Ltd | 銀行 | オーストラリア | 3.3% |
| Woodside Petroleum Ltd | エネルギー | オーストラリア | 2.9% |
| China Construction Bank Corporation | 銀行 | 香港 | 2.8% |
| Ind & Comm Bank Of China | 銀行 | 香港 | 2.7% |
| Bank Of China Ltd | 銀行 | 香港 | 2.6% |
| Taiwan Semiconductor Manufacturing | 半導体・半導体製造装置 | 台湾 | 2.5% |
| Keppel Corporation Limited | 資本財 | シンガポール | 2.2% |
| Wesfarmers Ltd | 食品・生活必需品小売り | オーストラリア | 2.2% |
| Westpac Banking Corporation | 銀行 | オーストラリア | 2.2% |

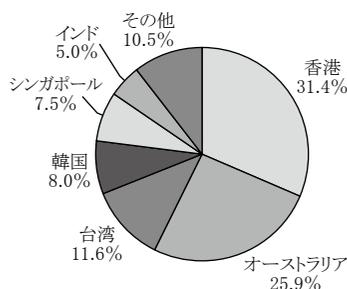
○1万口当たりの費用明細

| 項目 | 金額 |
|---------------------|-------------|
| (a) 売買委託手数料 (株式) | 27円 (27) |
| (b) 有価証券取引税 (株式) | 10 (10) |
| (c) 保管費用等 | 11 |
| 合計 | 48 |

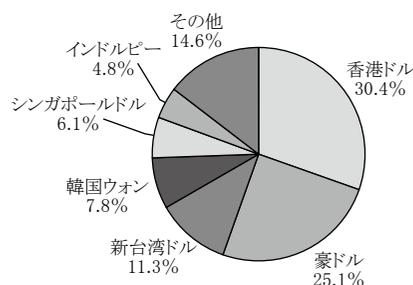
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

(注2) 1万口当たりの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。2ページの項目の概要および注記をご参照ください。

(注3) 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは2014年10月6日現在のものです。

(注4) 組入上位10銘柄、資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する割合、国別配分の比率は組入銘柄の総額に対する割合です。

(注5) 組入上位10銘柄、国別配分の国・地域は、株式が上場されている主要な金融商品取引所の所在国・地域を記載しています。

* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

指数に関して

○「代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

- 東証株価指数(TOPIX)は、株式会社東京証券取引所の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウ及び東証株価指数(TOPIX)の商標又は標章に関するすべての権利は株式会社東京証券取引所が有しています。
- MSCI指数(MSCIコクサイ・インデックス、MSCIエマージング・マーケット・インデックス)はMSCI Inc.が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- NOMURA-BPIは、野村証券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村証券株式会社に帰属します。
- シティ世界国債インデックスはCitigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている債券インデックスであり、著作権は、Citigroup Index LLCに帰属します。
- JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド(円ベース)はJ.P. Morgan Securities LLCが算出、公表しているインデックスであり、著作権、知的財産権はJ.P. Morgan Securities LLCに帰属します。